

令和5年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～	
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー	
重点プロジェクト			
強靱なまちづくりプロジェクト			
主管課	都市政策部 上下水道課	評価責任者	山風呂 敏
		評価日	令和6年6月1日
関連課			
目標	浄水施設や水道管路などの水道施設の維持管理を適正に行うとともに、給水量の減少を踏まえた水道施設の更新など事業の見直しを進めます。		
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 水道水の安定供給 ○給水量の減少を考慮した、福岡浄水場と大井浄水場からの給水区域の見直しや浄水場施設などのダウンサイジングを行います。 ○浄水場の水質管理や施設の適切な維持管理、老朽管や石綿セメント管の更新を通じ、災害に強く安全な水道水の安定供給に努めます。 ○緊急時における飲料水を確保するため、取水施設の耐震化及び老朽化した井戸の水質改善を検討します。</p> <p>(2) 水道事業の経営基盤の強化 ○水道事業の安定化のため、施設の耐震化や計画的な施設更新を実施するとともに、今後の水道水の需要を的確に把握し、適正な料金水準を設定します。</p>		

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策 目 標	指標1	指標名	石綿セメント管の残延長						
		説明	老朽管（石綿セメント管）を計画的に更新することにより、耐震化率を向上させ、安全で安心な水道水の安定供給を図っている。石綿セメント管更新事業に注力した結果、目標値を超える実績値となっている。						
		単位	km						
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		目標値	10.30	9.20	8.10	7.00	6.00	5.00	
		実績値	9.50	8.00	6.60	4.70	3.80	2.40	
	指標2	指標名	井戸の更新(新設)箇所数						
		説明	大規模な停電発生時においても水道水の安定供給を図るため、水源井戸の掘り替え、又は電源盤を改造している。目標箇所の更新は令和3年度に達成していることから、未更新井戸の事業について検討している。						
		単位	箇所						
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		目標値	3	4	5	6	7	7	
		実績値	1	3	5	7	7	7	
	指標3	指標名							
		説明							
		単位							
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
		目標値							
		実績値							
	指標4	指標名							
		説明							
単位									
成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	目標値								
	実績値								
指標5	指標名								
	説明								
	単位								
成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	目標値								
	実績値								

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	2,149,351	2,094,028	2,254,456	2,102,826	2,045,966	2,276,640
	人件費	84,274	95,884	93,930	89,587	87,616	77,858
収入	特定財源	2,233,625	2,189,912	2,348,386	2,192,413	2,133,582	2,354,498
	一般財源	0	0	0	0	0	0

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	石綿セメント管の残延長	どのような状況においても安全で安心な水道水の安定供給を行うため、老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性に優れたダグタイル鑄鉄管等に更新するとともに、既設管の維持管理及び施設の水準向上に向け取組んでいる。	脆弱な老朽管（石綿セメント管）から耐震性・耐久性の優れたダグタイル鑄鉄管等へ1.4km更新した。災害への備えと共に、管路の耐久性が向上したことにより、漏水等を伴う突発的な管路事故の発生を未然に防ぐ効果もあり、有収率の向上にも繋がっている。	水道管路施設管理・更新事業
取組②	井戸の更新（新設）箇所数	どのような状況においても水道水の安定供給が可能となる強靱な水道の構築を進め、安全で安心な水道水を安定して供給するため、水源井戸及び浄水場の設備等の維持管理を行うとともに耐震性の向上を図る。	水源井戸及び浄水場の設備の維持管理を適切に行うとともに、水源用の取水ポンプ1台を更新したことにより、水道施設の強靱化が図られていることから、災害時や大規模停電時においても水道水の確保が可能となり、安定した水道水の供給に繋がっている。	浄水施設管理・改修事業
取組③				
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	水道は、市民生活や経済活動に欠かせない最も重要なライフラインとして、24時間365日、安心して利用できるよう、施設の強靱化が求められている。
順調	水道水の安定した供給を図るうえで欠かすことができない配水管等については、その規模や経営的課題から、1年度に約1kmの更新を目標としている。しかしながら、漏水事故及び災害対策として耐震化率の早期向上を図るため、更新事業に注力していることから、計画目標値を大きく超える結果となっている。また、水源井戸についても、令和3年度において、更新（新設）箇所数が計画の最終目標値に達したことにより、災害に強く、安全な水道水の安定供給に繋がるものとなっている。
行政資源の活用	
適切	
取組の有効性	こうしたことから、本市の水道施設は、計画どおりに災害対策が推進されており、重点プロジェクトに掲げられた「強靱なまちづくりプロジェクト」についても順調に進んでいると捉えている。
有効	今後においても、安全で安心な水道水の安定供給を継続するため、施設の強靱化に向けた浄水場の耐震工事、水源井戸設備の更新に取り組む。また、石綿セメント管の更新終了後も老朽管の更新を継続するとともに、既設管の維持管理及び水道施設の水準向上に努めることにより、強靱な水道の構築を進める。
施策の効果	
効果が得られている	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		水道事業管理等事務	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	大塚 昌利
事務事業期間		昭和38年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等				
事務事業の内容	事務事業の目的	生活用水、その他の浄水を市民に供給するため、安全・安心、かつ、安定した水道水の供給体制の確立を目指し、計画的・効率的な事業経営に取り組む。 また、水道事業の健全運営に資するため、事業経営の基礎となる水道料金を適正に収納する。		
	事務事業の経緯	水道事業は、地方公営企業法に基づく地方公営企業として、市長部局から独立し、独立採算が求められている。地方公営企業として適正な予算・決算及び出納事務を実施し、併せて継続的に安定的な経営を維持する。		
	事務事業の概要	安全・安心、かつ、安定した水道水の供給体制の確立、及び計画的・効率的な事業経営を図るため、的確な水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行う。 なお、水道料金徴収に関する業務については、平成24年度より包括的に業務を委託している。		
	令和5年度の主な取組	水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。 収納率の向上及び滞納金額の減少を図るため、口座振替推進キャンペーンの実施や口座振替手続の負担を軽減するサービスを導入した。 現在の水道ビジョン及び水道事業経営戦略を改定し、新たな水道ビジョン・水道事業経営戦略を策定した。 水道料金改定の条例案を令和6年3月市議会定例会に提出し、原案どおり可決された。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	3.50	3.54	3.05
		人件費	27,878	28,048	24,166
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.08	1.00	1.00
		人件費	0	2,272	3,706
人件費計		27,878	30,320	27,872	
事業費	報酬	92	1,922	2,294	
	賃金	0	0	0	
	需用費	496	402	1,365	
	委託料	145,519	150,133	142,141	
	使用料及び賃借料	1,747	1,742	1,681	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	298	336	334	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	709,229	663,065	713,629	
支出合計		885,259	845,648	885,610	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	693,161	740,116	786,483
		分担金・負担金	192,098	46,304	50,294
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	59,228	48,833
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	当年度純利益(純損失) 額		
	説明	収支状況を表し、収益から費用を減じた事業活動の最終的な収支状況を表す指標。 ※この数値がプラスであれば純利益、マイナスであれば純損失が生じている。		
活動	単位	千円		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	5,115	6,639	127,451
	実績値	174,381	183,466	
指標 2	指標名	経常収支比率		
	説明	経常費用が経常収益によって、どの程度賄われているか収益性を表す指標（経常収支比率＝経常収益/経常費用×100）		
成果	単位	%		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	100.57	100.67	100.00
	実績値	110.91	111.66	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>水道事業の予算編成、決算処理及び執行管理を実施し、適正な会計処理を行うことにより、経営の安定を図った。</p> <p>令和6年度予算編成事務においては、令和4年度の水道事業決算における各指標に基づき、PDCAサイクルを用いた進捗管理及び他事業体の平均との比較等を行った。</p> <p>水道料金徴収等の業務委託については、業務が適正に行われているか受託業者から定期的に報告を受け、適切な監督・指導を行い、水道料金等の徴収率の向上を図った。</p> <p>口座振替推進キャンペーンの実施や口座振替手続の負担を軽減するサービスを導入し、収納率の向上及び滞納金額の減少を図った。</p> <p>水道ビジョン及び水道事業経営戦略について、令和4年度から5年度までの2年間で改定を行った。ふじみ野市上下水道審議会へ諮問し、パブリック・コメント及びふじみ野市上下水道審議会での審議を踏まえ、令和6年3月に新たな水道事業経営戦略（計画期間10年：令和6年度から令和15年度まで）を策定した。</p> <p>経営戦略の改定と並行して水道料金の改定についても検討し、ふじみ野市上下水道審議会での諮問・答申を経て、令和6年3月市議会定例会に条例改正案を提出し、原案どおり可決された。改定後の水道料金は令和6年12月以後の検針分から適用される。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	水道（事業）は市民生活・企業活動に必要な不可欠なライフラインであり、安全・安心な水を供給するために、「ふじみ野市水道ビジョン」、「ふじみ野市水道事業基本計画」及び「ふじみ野市水道事業経営戦略」に基づき、水道施設の老朽化の更新及び耐震化が必要である。財政基盤の強化及び料金負担の公平性確保のため、収納率の向上を図るとともに、適切な経営管理を行っていく。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		浄水施設管理・改修事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	北澤 豊
事務事業期間			評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業ビジョン、ふじみ野市水道事業基本計画、ふじみ野市水道事業経営戦略		
事務事業の内容	事務事業の目的	水源・浄水場の適切な運転・維持管理及び水質の管理を行い、市民に安全な水道水を安定供給することを目的とする。		
	事務事業の経緯	水道利用者を対象に、安全な水道水を安定供給するため、水源・浄水場の運転・維持管理、水道法に基づく水質検査を行う。		
	事務事業の概要	安全な水道水を安定供給する為、原水、浄水の水質検査、水源・浄水場の運転及び設備等の維持管理を行う。 また、災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築を進めるため、配水池等の耐震性の向上や、水源となる井戸の更新を行う。		
	令和5年度の主な取組	①運転管理及び施設点検ー福岡・大井浄水場及び取水施設において、安心して利用できるよう、運転管理を行うとともに、計装機器や非常用発電機の点検、整備、修繕等を行った。 ②水質検査ー水質検査計画に基づき各浄水場及び水源の他、市内4施設で水質検査を行った。 ③施設の強靱化ー(1)福岡第1配水池耐震補強工事に着手し、令和4年度から令和7年度にかけて工事を実施している。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	2.50	1.00	2.83
		人件費	19,913	7,923	22,423
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.91
		人件費	0	0	3,237
人件費計		19,913	7,923	25,660	
事業費	報酬	0	0	2,095	
	賃金	0	0	0	
	需用費	134,840	100,678	145,221	
	委託料	186,549	169,176	216,353	
	使用料及び賃借料	625,074	622,149	625,057	
	工事請負費	41,118	127,450	133,813	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費	274	277	326		
支出合計		1,007,768	1,027,653	1,145,288	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	963,268	770,226	875,579
		分担金・負担金	0	57,754	65,557
		地方債	44,500	125,800	140,500
		基金	0	0	0
		その他	0	73,873	63,652
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	井戸の更新(新設)箇所数		
	説明	安全な水道水を安定供給するとともに、緊急時の飲料水の供給確保のため必要な水源(電源等)の更新を行う。		
活動	単位	箇所		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	7	7	7
	実績値	7	7	7
指標 2	指標名	施設月例点検		
	説明	安全な水道水を安定供給する為、水源・浄水場の施設の運転及び設備等の点検を行う。(2施設の月例点検)		
活動	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	24	24	24
	実績値	24	24	24
指標 3	指標名	施設年次総合機能点検		
	説明	安全な水道水を安定供給する為、水源・浄水場の施設の運転及び設備等の点検を行う。(2施設の年次点検)		
活動	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	2	2	2
	実績値	2	2	2

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>① 水源となる井戸や浄水場内に配置されているポンプ等の運転操作や維持管理を行うことで、安全な水道水の安定供給を行った。 併せて、水道施設の状態を的確に掴み、将来必要となる更新需要を把握するため、水道施設設備台帳システムを構築した。このシステムを利用することにより、計画的な設備の改修に繋がる。</p> <p>② 大井浄水場、福岡浄水場及び市内10箇所の水源井戸において、原水や浄水の水質検査を実施し、水道法に基づき厚生労働省令により定められている水質基準に違反しないように監視、管理を行うことで、安心・安全な水道水の安定供給に繋がる。</p> <p>③ 福岡浄水場内にある第1配水池において、令和4年度から継続して、地震に強い配水池の構築を図るとともに、使用から約20年経過したことによる劣化に対しての適切な補修を行うことで、安全・安心な水道水の安定供給に繋がる。</p>
	※産休代替等に係る会計年度任用職員の人件費として別途予算管理する2,178千円が加算される。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民生活や経済活動に欠かせないライフラインとして、24時間365日、安心して水道を利用できるよう、事業を継続させる必要がある。 災害時にも水道水の供給が可能な強靱な水道の構築には、水道施設の耐震性を高めていかなければならない。令和4年度から実施している耐震補強工事では、市民への配水を継続しつつ工事を行う必要があることから、施工エリアを大きく4区間に区切り実施しており、令和6年度も引き続き事業を進めていく。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		水道管路施設管理・更新事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト		強靱なまちづくりプロジェクト		
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～		
	施策	32 水道 ー安全な水道水を安定供給しますー		
予算費目				
所管部課		都市政策部 上下水道課	評価責任者	北澤 豊
事務事業期間		昭和38年～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		水道法、地方公営企業法、ふじみ野市水道事業ビジョン、ふじみ野市水道事業基本計画、ふじみ野市水道事業経営戦略		
事務事業の内容	事務事業の目的	老朽管（石綿セメント管）を耐震性に優れた管に布設替え（更新）を行うことで、漏水を減らし震災に備えるとともに既設管の維持管理を行うことにより、安全な水道水の安定供給を図ることを目的とする。		
	事務事業の経緯	石綿セメント管は、摩擦損失係数が小さく、他の材料に比べて安価であったこと等から、水道事業創設（東側地区・昭和37年、西側地区・昭和39年）から昭和50年代前半に布設された。しかし、石綿セメント管はせん断性が弱く、破損率が他の管種よりも高いことから、老朽化した管渠を水道管の耐震化を計画的に更新事業を実施している。		
	事務事業の概要	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鋳鉄管に更新するため、実施設計、施工管理を行い、安全な水道水の供給や災害時にも安定的な供給を行うために既設管の維持管理や施設水準の向上に向け取り組んでいる。		
	令和5年度の主な取組	老朽管（石綿セメント管）を耐震性・耐久性のあるダクタイル鋳鉄管等に約1.4km更新した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	5.00	5.00	4.15
		人件費	39,825	39,615	32,881
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計		39,825	39,615	32,881	
事業費	報酬	0	0	0	
	賃金	0	0	0	
	需用費	68,671	82,192	113,700	
	委託料	18,255	22,026	23,925	
	使用料及び賃借料	0	251	251	
	工事請負費	110,116	336,298	351,538	
	負担金、補助及び交付金	0	0	3,300	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費	3,688	815	1,873	
支出合計		240,555	481,197	527,468	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	225,375	424,201	470,556
		分担金・負担金	15,180	25,008	28,875
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	31,988	28,037
一般財源		0	0	0	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		0	0	0	

※報酬、賃金には、臨時・嘱託職員の人件費も含まれています。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	老朽管（石綿セメント管）更新進捗率		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を計画的・効果的に更新していくことにより、耐震性を高め、安全で安心な水道水の供給を図る。		
活動	単位	%		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	94.00	95.00	98.80
	実績値	96.20	97.59	
指標 2	指標名	石綿セメント管の残延長		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を計画的に更新し、残存延長を減らすことにより、耐震率が上がり、安全で安心な水道水の供給を図る。 令和10年度には、石綿セメント管の残延長0kmを目指す。		
活動	単位	km		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	6.00	5.00	1.20
	実績値	3.80	2.40	
指標 3	指標名	有収率		
	説明	老朽管（石綿セメント管）を漏水の少ない耐震性・耐久性のある管に更新することにより、有収率の向上を図る。		
活動	単位	%		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	95.00	95.00	95.00
	実績値	95.40	94.27	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>石綿セメント管については、本市水道事業創設当時は、安価で最適な管種として主流だったことから、本市においても使用していた。</p> <p>しかしながら、耐震性が低い上に現在では老朽化が進み漏水や破損事故等につながる可能性が高くなったため、石綿セメント管から、耐久性のあるダクタイル鋳鉄管等に布設替えし（令和5年度においては約1.4kmを更新）管路の耐震化率を高くすることにより、事故割合を低下させている。</p> <p>この結果、安全・安心で安定した水道水供給が図られるとともに、有収率の向上につながっている。</p>
	<p>○石綿セメント管 石綿繊維（アスベスト）、セメント、珪砂を水で練り混ぜたもの。アスベストセメント管、石綿管とも呼ばれる。</p> <p>長所としては、耐食性・耐電食性が良好であるほか、軽量で加工が良い。また、価格が安価などが挙げられる。一方、強度面や耐衝撃性で劣るなどの短所がある。</p> <p>○残存率（令和5年度） 石綿セメント管残存延長（2.4km）÷導・配水管総延長（332.0km）×100≒0.7%</p> <p>○有収水量 料金徴収の対象となった水量及び他会計等から収入のあった水量。</p> <p>○有収率（令和5年度） 年間有収水量（11,947,845m³）÷年間配水量（12,603,955m³）×100≒94.7%</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	老朽管（石綿セメント管）を耐震性に優れた管に布設替え（更新）することにより、既設管の維持管理や施設水準を向上させる。 また、漏水を減らすとともに、災害に強い街づくりを目指し、安全な水道水の安定供給を図る。
中長期的方向性	
継続	